

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470901438	事業の開始年月日	平成17年12月10日
		指定年月日	平成17年12月1日
法人名	医療法人 寛栄会		
事業所名	高齢者グループホームカメラア式番館		
所在地	(〒 233-0057) 横浜市港北区新羽町4092-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	H23年8月15日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

カメラア式番館は、竹林や畑などに囲まれ、自然環境に恵まれた中に立地しており、春には近隣で梅や桜が咲き、季節を肌で感じることができる。天気の良い日には気分転換と運動をかねて散歩に出かけ、体力低下の予防にもなっている。毎日の食事の準備や片付け、掃除等、生活に関わることをすべて入居者と一緒に行うよう取り組んでいる。個人差のある身体能力の中で一人ひとりの出来ること、希望を実現出来る場を生活の中で提供し、生きがいや達成感を感じる事が出来るように力を注いでいる。また、ホームの運営については同法人の医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者や相談しあえるサポート体制がある。年々、変化していく入居者の状態に寄り添いながら、その方にとってのよりよい生活を念頭においた支援をしていきたいと考えている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	財団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月6日	評価機関 評価決定日	平成23年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所概要】

この事業所は、横浜市営地下鉄線新羽駅から徒歩約20分の緑に囲まれた静かな環境に立地している。平成17年12月に開所した2ユニットの平屋建てのグループホームで、個人の二世帯住宅を思わせる外観である。
事業所の理念は、「利用者の意志を尊重し、家庭的な楽しい生活を創り、地域との開かれたホームづくり」としている。

【地域への福祉事業への情熱とふれあい】

運営法人は、近隣に介護老人保健施設を中心として通所・訪問リハビリテーション、地域の方も利用する内科・心療内科の診療所、居宅介護支援センターなど介護にかかわる総合的な事業運営をしている医療法人である。福祉・介護・看護のノウハウを地域社会で展開しながら、人とのふれあいと尊厳を大切にし、地域の福祉事業の貢献に努めている。

【医療連携とターミナルケア】

事業所は医療連携体制加算の指定を受け、看護師と連携し、24時間連絡体制をとっている。また、ターミナルケアの指針を作成し、主治医・看護師、家族・職員が話し合い、利用者・家族の意向を尊重し、可能な限り事業所で看取り介護する方針の確立に努めている。

【映画鑑賞と音楽療法】

事業所の近隣にある介護老人保健施設にはカメラ・シアターがあり、月1回上映会を開催しており、利用者は時代劇や人気の人情物などの映画鑑賞を楽しんでいる。
音楽療法は、週2回音楽療法士が来訪し、音楽を聴き、唄を歌い、身体を動かしてリハビリテーションに努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館
ユニット名	A棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にサービスを行っている。	理念は開設当初の管理者と法人本部が話し合って作成し、玄関に掲示している。職員は日頃より利用者との会話の中で、利用者の意志を尊重し「否定をしないケア」の実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭など、地域の催しには積極的に参加している。散歩の時などにも積極的に挨拶を行い、親しまれる努力を行っている。	地域の行事には法人全体で積極的に参加している。地域の中学生在が福祉体験に訪れたり、小学生は楽器演奏に訪れたりしている。また、地域のボランティア団体が定期的に演奏会等で来所しており、外部との交流も行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症に対する相談がしやすいよう日頃より地域住民の方とのコミュニケーションに努めている。地域の中学生の福祉体験の受入れを行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中でのホームについての意見を聞き取ることの出来る場であるとともに、入居者の状態を理解していただけるよう努めている。	直近の運営推進会議は、同法人の壱番館と合同で平成23年2月に実施した。会議では事業所の運営状況や活動内容を報告し、意見交換を行っている。地域の神社で初詣をしたり、防災訓練を地域と協力して実施することなどを勧められた。	会議の開催頻度をもう少し増やし、地域の情報を得るとともに外部評価や情報公表制度についても報告することで、事業所の特徴や課題を地域住民に開示する機会にしていけることが望まれます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政よりFAXや通知で情報提供を受けている。求められるアンケートには回答しており、情報頂いた研修に積極的に参加している。	法人本部が港北区高齢福祉課と事業所の実情や相談などの連絡を密に取っている。神奈川県グループホーム連絡協議会から研修の案内が届き、受講している。	管理者自ら、市や区役所とも日頃より連絡をとり、積極的に情報提供し、共有の協力関係を築くことが望まれます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して当該研修を行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、外出願望のある入居者には可能ながざり同行している。否定をしないケアに努め、心理的拘束感を持たないように努めている。	職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者が外出願望のある時には、なぜそのような思いを持たれるのか、行動の基となる思いに配慮し、会話を多く持つように心掛けている。また、外出を簡単に抑えず、一緒に出掛けることで、行動制限をせず自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報保護・身体拘束等の知識を高めている。疲れの見える家族とは積極的に会話をを行い、病気の理解とサービスを利用する事での利点について説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報保護・身体拘束等の知識を高めている。ホームにはあんしんセンターを利用している人や後見人制度を活用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時には重要事項説明や契約書の内容をひとつひとつ解りやすい表現に言い換えながら説明し、理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し立ての場所をホーム管理者の他、横浜市の苦情受付連絡先を契約書に記載している。面会時には積極的に声掛けを行い、話しやすい雰囲気作りに努めている。	苦情や要望の担当窓口は、重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。家族の来訪時や行事の際には利用者の生活状況を説明し、意見・要望を聞いて運営に反映するように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや、入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。	管理者は全体会議とフロア会議時に職員の意見や提案を聞き、業務改善している。法人本部の職員も防災訓練に参加するなど来所する機会を持ち、職員の提案や意見・要望を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回法人内各部署代表による会議で、それぞれの部署の状況相談を表出できる場がある。また、法人本部には常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議の委員として地域の同業者と交流する機会を設けている。同法人のグループホームとも情報交換する事で、良いところは取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人と会う機会を持ち、毎日の過ごし方等の聞き取りを行っている。また、ホームでの生活を伝える事により、より安心感を得られるよう努めている。入居後は個別の関わりを大切にした支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせには迅速に対応し、お話を傾聴している。職員による自宅訪問・本人、家族のホーム見学を通してお互いの趣旨や生活環境の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活していくうえでどのような支援が必要なのか、また、ご家族が何を求めているのかを考慮している。当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを考え、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩中や台所仕事などでも会話を大切にしている。家事の得意な方には、教えを請うようにし、教えていただいた時は感謝の意を表している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の苦労を配慮しながら入居者を一緒に支えていけるように、日常生活の相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、持ち込みいただき、生活空間の中に馴染みのものを取り入れている。家族や友人との面会及び外出も推進している。	利用者は家族と一緒に、行きつけの理髪店や家族の法事に行く方がいる。時には利用者の友人が家族の了解を得て来所し、居室で歓談し、食事後外出することもあり、馴染みの関係を継続するように支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わりあえる時間を設定している。うまくコミュニケーションをとれない場合は職員が間に入りよい関係づくりに努めている。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の郵便物に一筆添えるなど、今までの関係に対して敬意を怠らないようにし、間口を広く開けた関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい物や行きたいところなど、日々の会話から汲み取る努力をしている。	職員は日常の行動やしぐさ、会話の中から利用者の意向や希望を察知するためにも会話をできるだけ多く持つように努めている。意向を伝えにくい人には、夜間の静かな時間帯や散歩中に草花を見ながら話をすることで、ゆったりした会話の中から思いを語ってもらえるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報として、生活歴の聞き取りをしており、人生の歩みを大切にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活記録と申し送りで入居者の1日の様子を把握するよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者および、家族からの要望や職員から聞き取った内容をもとに、一人ひとりの適性にあったプランを作成実行している。支援経過の検討を行い常に入居者にとって適正なプランなのかを検討している。	入居時には食事・排泄・入浴・基本動作など7項目のケアチェック表と利用者や家族の要望・意向を基に介護計画を仮作成している。フロア会議や職員間で話し合い、主治医・看護師の所見を参酌している。通常は6ヶ月毎に見直し、現状に即したものになるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や夜間の様子を記録に残し、特記事項については申し送るようにしている。サービスの経過を話し合い、その方にあった取り組みを検討している。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ担当や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や食事摂取困難な方への対応の参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットで衣類や食料などの買い物を本人とともにやっている。また、自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っている。月に1回、職員付き添いのもと、カメラリア診療所受診で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。	本人や家族の希望により、かかりつけ医による医療を継続して受診できるように支援しており、家族に替わって職員が通院介助する場合もある。協力医療機関の医師の受診が月1回ある。医療情報は連絡ノートに記録し共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を算定しており、担当看護師により定期的に入居者の健康管理を行っている。その他、老健看護師にいつでも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を家族を通じて伝えている。また、退院が近くなった時には、家族の許可を取り、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意の聞き取りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針についての説明を行っている。H22年4月に緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った。	看取り介護については、家族の要望があり、条件が合致すれば行う方針である。看取りの指針については入居時に説明し、趣旨に対して同意を得ている。また、看取り介護を開始する際には再度同意を得るようにしている。急変時には主治医、家族、職員が話し合い最善の方法を採るという方針を共有し、勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応についての知識を高めている。勉強会ではAED使用法や救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では入居者も参加し、実際に避難を行っている。また、職員は水消火器による消化訓練も行っている。	防災・避難訓練は、消防署の指導を得て、年2回夜間を想定して実施している。訓練時には地域の消防団員、町内会長の協力を得ている。非常用の備蓄は法人本部で備蓄している。	近隣の介護老人保健施設に備蓄があっても、非常用食料・飲料水、その他必要な物品は、事業所単位での備蓄の検討が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人のプライバシーに関わる声掛けは必要以上に大きな声を出さないように配慮している。記録の扱いには十分注意している。	職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出し、日頃よりプライバシーを損ねることのないように言葉づかいに配慮している。個人情報に関する書類は介護ステーション内の書庫に保管している。	介護ステーションの出入り口は施錠できますが、個人情報に関する書類は、施錠できる書庫に保管することが望まれます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときには、伺いを立てる声掛けを行い、本人の決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示する工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声掛けを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子からその方の好む色や組み合わせを把握し、気持ちよく過せる着まわしを提案している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と職員と一緒にやっている。基本を献立としてその他、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が提供できるよう配慮している。	利用者は職員と一緒に下膳、食器拭き、テーブル拭きなどを行っている。職員は利用者と一緒に食事を取り、食事介助もさりげなくしている。色合いや味つけを配慮することで食欲増進を促している。また、1人ひとりの着座位置にも注意を払っていた。誕生会では利用者にケーキを提供し、色紙を贈りお祝いすることで特別な日を演出している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい方には好みの飲み物を提供したり少量を数回に分けてすすめている。食事量の少ない方には声掛けや介助を行い食間におやつを提供している。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りでの排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。また、日中と夜間での尿とりパットの使い分けを行っている。	排泄チェック表から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を支援している。排泄チェック表はトイレ介助の方のみ詳細に記入し、表情やしぐさなどから察知し声かけをしている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	粉末食物繊維の提供や、冷たい牛乳の摂取など、その方にあった方法を提供している。運動の足りない方には散歩を促している。それでも改善のない方には医師に相談し、便秘薬を処方してもらっている。		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入居者が希望する時には時間に関わらず可能な限り提供している。年間行事として、菖蒲湯・ゆず湯を行っている。	入浴は基本的には1日おきに、希望があれば心身状態を考慮し、できるだけ入浴できるように支援している。入浴をしたがらない方には、「体重測定をしましょう」と声をかけたり、時間、人を変えるなどの工夫をしている。また、入浴時には体調等のチェックをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。また、リビングで皆様と過ごす時、自室で一人過ごす時を自由に選択する事ができる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より、薬が処方されたときは薬の内容を申し送り、職員へ効用を認識するようにしている。服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会やクリスマス会など、歳時行事を行っている。また、縫物が好きな人には針仕事を、家事の得意な方には台所仕事を行っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下予防とともに季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は家族の協力をあおいでいる。	利用者は車いすの方も天候や体調、希望に応じて事業所の周り、川沿いやお寺を回るコース等、短い時間でも頻繁に散歩に出るようにしている。出掛けられない時は、ウッドデッキで外気浴をすることもある。職員と一緒に食材や日常品の買い物に出掛けるのを楽しみにしている方もおり、職員は、外出を重要な生活支援と考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、基本的にお預かりしている。自己管理を希望されている方には家族と相談の上、いくらか所持しており、買い物の際には自分でレジの支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と本人の希望で、携帯電話を所持している入居者がいる。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンを活用し、時間や気候に即した外光管理を行っている。	館内全体が清潔に保たれており、窓からの自然光が心地良い。窓際にソファを配置した事で利用者から居心地よく過ごせると好評である。壁面には利用者の作品、行事の写真、手作りカレンダーが飾られ、室内に彩りを加えている。中庭の草花が、良い景観を作っている。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル椅子の他、ソファがあり、入居者が思い思いに過している。共有部分でも一人になれる場があり、自由に過している。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や家具、家族の写真など、持ち込みしていただき、今までの生活とのつながりを身近に感じる事が出来るよう配慮している。	利用者は、居室に使い慣れた整理タンス、家族の写真、ぬいぐるみなどを飾り、その人らしく生活している。適度な広さと落ち着いた感じの居室となっていて、一人ひとり個性ある暮らしを送っている様子が伺えた。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活出来るようにしてある。ADLによっては職員が歩行の介助を行っている。		

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470901438	事業の開始年月日	平成17年12月10日
		指定年月日	平成17年12月1日
法人名	医療法人 寛栄会		
事業所名	高齢者グループホームカメラア式番館		
所在地	(〒 233-0057) 横浜市港北区新羽町4092-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工口数	2工口
自己評価作成日	H23年8月15日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

カメラア式番館は、竹林や畑などに囲まれ、自然環境に恵まれた中に立地しており、春には近隣で梅や桜が咲き、季節を肌で感じることができる。天気の良い日には気分転換と運動をかねて散歩に出かけ体力低下予防を行っている。毎日の食事の準備や片付け、掃除等、生活に関わることをすべて入居者と一緒に行うよう取り組んでいる。個人差のある身体能力の中で一人ひとりの出来ること、希望を実現出来る場を生活の中で提供し、生きがいや達成感を感じる事が出来るように力を注いでいる。また、ホームの運営については同法人の医師・看護師・管理栄養士・リハビリ担当者と相談しあえるサポート体制がある。年々、変化していく入居者の状態に寄り添いながら、その方にとってのよりよい生活を念頭においた支援をしていきたいと考えている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	高齢者グループホームカメラ式番館
ユニット名	B棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員・外来者の目に付くよう玄関に掲示されている。理念に基づきホームが地域の一員である事を認識し、近隣との関係づくりに努めている。入居者一人ひとりの個性を大切にしたサービスを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大竹町内会に加入しており、町内会の運動会やお祭など、地域の催しには積極的に参加している。散歩の時などにも積極的に挨拶を行い親しまれる努力を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者や認知症に対する相談がしやすいよう日頃より地域住民の方とのコミュニケーションに努めている。地域の中学生の福祉体験の受入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中でのホームについての意見を聞き取ることの出来る場であるとともに、入居者の状態を理解していただけるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政よりFAXや通知で情報提供を受けている。求められるアンケートには回答しており、情報頂いた研修に積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間を通して当該研修を行っている。日中は玄関の施錠はしておらず、外出願望のある入居者には可能なかぎり同行している。否定をしないケアに努め、心理的拘束感を持たないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報保護・身体拘束等の知識を高めている。疲れの見える家族とは積極的に会話をし、病気の理解とサービスを利用する事での利点について説明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会に参加し、権利擁護・虐待・個人情報保護・身体拘束等の知識を高めている。ホームにはあんしんセンターを利用している人や後見人制度を活用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時には重要事項説明や契約書の内容をひとつひとつ解りやすい表現に言い換えながら説明し理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し立ての場所をホーム管理者の他、横浜市の苦情受付連絡先を契約書に記載している。面会時には積極的に声掛けを行い話しやすい雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を行い、業務改善についての話し合いや、入居者に対する関わり方などの話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回法人内各部署代表による会議で、それぞれの部署の状況相談を表出できる場がある。また、法人本部には常時相談できる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・隔月での勉強会で自己研鑽に努めている。また、各自キャリアを自覚し、後輩へ指導する事を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議の委員として地域の同業者と交流する機会を設けている。同法人のグループホームとも情報交換する事で、良いところは取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人と会う機会を持ち、毎日の過ごし方等の聞き取りを行っている。また、ホームでの生活を伝える事により、より安心感を得られるよう努めている。入居後は個別の関わりを大切にした支援を行っている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせには迅速に対応し、お話を傾聴している。職員による自宅訪問・本人、家族のホーム見学を通してお互いの趣旨や生活環境の把握に努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が生活していくうえでどのような支援が必要なのか、また、ご家族が何を求めているのかを考慮している。当ホームでの生活が最適か、他にどのようなサービスが適しているかを考え、必要に応じて他種機関と連携を図っている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩中や、台所仕事などでも会話を大切にしている。家事の得意な方には、教えるようにし、教えていただいた時は感謝の意を表している。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の苦労を配慮しながら入居者を一緒に支えていけるように、日常生活の相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や茶碗など、持ち込みいただき、生活空間の中に馴染みのものを取り入れている。家族や友人との面会及び外出も推進している。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩やレクリエーションなど、入居者同士が関わりあえる時間を設定している。うまくコミュニケーションをとれない場合は職員が間に入りよい関係づくりに努めている。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の郵便物に一筆添えるなど、今までの関係に対して敬意を怠らないようにし、間口を広く開けた関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は入居者の要望を共有し、実現に向けて取り組んでいる。食べたい物や行きたいところなど、日々の会話から汲み取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の情報として、生活歴の聞き取りをしており、人生の歩みを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活記録と申し送りで入居者の1日の様子を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者および、家族からの要望や職員から聞き取った内容をもとに、一人ひとりの適性にあったプランを作成実行している。支援経過の検討を行い常に入居者にとって適正なプランなのかを検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や夜間の様子を記録に残し、特記事項については申し送るようにしている。サービスの経過を話し合い、その方にあった取り組みを検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の老健リハビリ担当や、管理栄養士に相談し、リハビリの方法や食事摂取困難な方への対応の参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットで衣類や食料などの買い物を本人とともにやっている。また、自然環境豊かな中での散歩を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っている。月に1回、職員付き添いのもと、カメラア診療所受診で健康管理を行っており、必要に応じて専門の医療機関への紹介も行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定しており、担当看護師により定期的に入居者の健康管理を行っている。その他、老健看護師にいつでも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を家族を通じて伝えているまた、退院が近くなった時には、家族の許可を取り、病院関係者より入院中の様子や退院後の注意の聞き取りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針についての説明を行っている。H22年4月に緩和ケアの訪問医療を受けている入居者の看取りを行った。		
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内勉強会に参加し、急変時の対応についての知識を高めている。勉強会ではAED使用法や救急蘇生法の実践を行っている。		
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	港北消防署新羽出張所協力の下、年2回の防災訓練を行っている。訓練では入居者も参加し実際に避難を行っている。また、職員は水消火器による消化訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人のプライバシーに関わる声掛けは必要以上に大きな声を出さないように配慮している。記録の扱いには十分注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときには、伺いを立てる声掛けを行い本人の決定を促している。自己表出が難しい入居者には選択肢を提示する工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者の生活パターンを知り、何かをする時には気持ちよく行動できるよう、時間帯の選択や声掛けを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃の様子からその方の好む色や組み合わせを把握し、気持ちよく過せる気まわしを提案している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者と職員と一緒にやっている。基本を献立としてその他、個別に好みや食べやすさ、禁止食を考慮した食事が提供できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を取りにくい方には好みの飲み物を提供したり少量を数回に分けてすすめている。食事量の少ない方には声掛けや介助を行い食間におやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、必要な方には介助を行っている。歯槽膿漏や虫歯を早期発見し、歯科受診を行えるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表への記入や申し送りで排泄パターンを知り、トイレでの排泄を促している。また、日中と夜間での尿とりパットの使い分けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	粉末食物繊維の提供や、冷たい牛乳の摂取など、その方にあった方法を提供している。運動の足りない方には散歩を促している。それでも改善のない方には医師に相談し、便秘薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室や脱衣所の温度に気を配っている。入居者が希望する時には時間に関わらず可能な限り提供している。 年間行事として、菖蒲湯・ゆず湯を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調には気を配り、就寝しやすい室温を心がけている。また、リビングで皆様と過ごす時、自室で一人過ごす時を自由に選択する事ができる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関より、薬が処方されたときは薬の内容を申し送り、職員へ効用を認識するようにしている。服薬チェック表への記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会やクリスマス会など、歳時行事を行っている。また、縫物が好きな人には針仕事を、家事の得意な方には台所仕事を行っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行き、身体機能の低下予防とともに季節を実感する機会を提供している。入居者の希望する外出先が実現困難な場所の時は家族の協力をあおいでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、基本的にお預かりしている。自己管理を希望されている方には家族と相談の上、いくらか所持しており、買い物の際には自分でレジの支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と本人の希望で、携帯電話を所持している入居者がいる。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝と昼に掃除を行い清潔の維持に努めている。カーテンを活用し、時間や気候に即した外光管理を行っている。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル椅子の他、ソファがあり、入居者が思い思いに過している。共有部分でも一人になれる場があり、自由に過している。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や家具、家族の写真など、持ち込みしていただき、今までの生活とのつながりを身近に感じることが出来るよう配慮している。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置され、入居者が一人で安全に生活出来るようにしてある。ADLによっては職員が歩行の介助を行っている。		